

深谷小

気持ち一つに全校で活動



これがイチオシ

良いあいさつを心掛け

深谷小学校のイチオシはあいさつ運動とふわふわデーです。

気持ちの良いあいさつを心掛け、毎月第1水曜日の朝、あいさつ運動をしています。本部委員会の児童を中心に、昇降口で登校する児童にあいさつし、特にあいさつが良かった人は昼の放送で知らせ、意識を高めています。

ふわふわデーとは、児童の発案で昨年度始まった全校でふわふわ言葉を意識する取り組みです。本部委員会を中心に毎月第2、第4金曜日に、ふわふわ言葉を使うよう呼びかけています。

学校名 白石市深谷小学校
所在地 白石市福岡深谷松田23
創立 1879年
電話 0224(25)3536
校長 菅原 博
児童数 47人

自慢の「かさまつ太鼓」
深谷小学校の自慢は「かさまつ太鼓」です。かさまつ太鼓は1995年に「全校児童が気持ち一つにし、一緒に活動」を取り組む活動」を指して作られ、深谷小の伝統になっています。「スットン・スットン・ドドーン・一回」や「ドッコイ・ドッコイ・ドッコイ・ソレ」などの掛け声に合わせて太鼓をたたきます。
名前は、いつも校庭から私たちを見守っている校木の「かさ松」に由来します。全校で取り組むかさまつ太鼓は、下級



1〜5年生が太鼓を演奏した後、6年生が小学校生活最後の太鼓を披露した太鼓引き継ぎ式

編集委員 佐藤心玲、宮川陽菜、渡辺咲良（3月卒業）
指導教員 日下晴登

わが校わがまち スクール通信



今回は 西郷小（登米市）
大沢小（仙台市）

深いつながり豊かな自然

面瀬小



これがイチオシ

すてきな「オモトープ」

面瀬小学校の校庭には「オモトープ」というビオトープがあります。メダカ、オタマジャクシ、ヤゴなど、多くの生き物がすんでいます。休み時間にみんなで観察をしています。

オモトープの水は、湧き水を利用しています。1、2年の生活の勉強で生き物が大好きになった後、3年で面瀬川で生物と環境の調査をしました。源流には、きれいな水にすむサンショウウオが生息していて、見つけたときは、びっくりしました。面瀬の自然が身近に感じられるすてきな場所です。

学校名 気仙沼市面瀬小学校
所在地 気仙沼市松崎下赤田58
創立 1984年
電話 0226(22)7800
校長 佐藤 祐美子
児童数 242人

続けたい「まつり・探究」
私たちの学校には二つの自慢があります。一つ目は、全校児童の深いつながりです。休み時間は、いろいろな学年の友達と一緒に遊ぶのが当たり前です。みんなの仲が深まる活動として「あすなろまつり」があります。高学年が射的やお化け屋敷などを出店し、1〜4年生がお店を回って楽しむお祭りです。下級生が迷わないように、上級生と一緒に回ります。昨年は「おもしろん探し」という宝探しのミニゲームも行いました。



なかよくお店を回る子どもたち

編集委員 鈴木サキ、小野寺志龍、小野寺煌暁、小松蓮汰郎、小野寺葉子、大塚杏奈、小山柚月、佐藤千鶴、熊谷咲良、及川愛莉、小野寺南朋、菅沼共喜、小野寺凜々杏（3月卒業）
指導教員 亀谷彩布美、小野寺雅人

二つ目は、豊かな自然です。学校の近くにある面瀬川や気仙沼の海は驚きでいっぱい입니다。昨年度、生物や水質の調査、ワカメの養殖体験などの探究活動が認められ、文部科学大臣賞をいただきました。学習を通して、面瀬の自然の素晴らしさと、それを守っていくための課題を知りました。課題の解決に向けて、給食の残食を減らすことや、水などの資源を大切に使うことを全校で取り組んでいます。これからも、あすなろまつりと探究活動を続けてほしいです。

NEWS ニュース アラカルト
和歌山県白浜町のレジャー施設「アドベンチャーワールド」は、飼育する全4頭の雌のジャイアントパンダを、6月末ごろに中国に返還すると発表しました。貸与契約が8月に期間満了となるためです。返還後、国内で飼育されるパンダは上野動物園（東京都台東区）の2頭のみとなります。
アドベンチャーワールドは1994年、ジャイアントパンダを保護するための共同プロジェクトを中国側と始め、雄の永明など2頭が来園。永明は良浜との間に結浜、彩浜、楓浜を含む10頭、別の雌との間に6頭の子をもうけました。永明は2023年に帰国

和歌山パンダ 返還へ 中国との貸与契約が満了

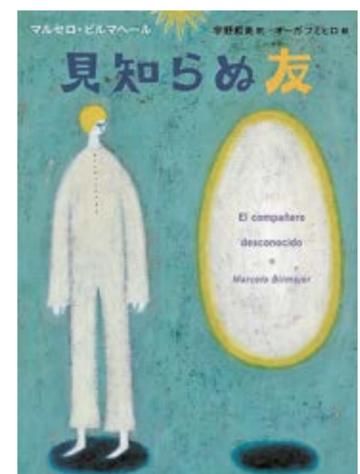


竹を食べるジャイアントパンダ「結浜」=4月24日、和歌山県白浜町のアドベンチャーワールド

と発表されました。和歌山では24歳の良浜を筆頭に、結浜（8歳）、彩浜（6歳）、楓浜（4歳）が飼育されています。今津孝二園長は「今後新たにパンダを受け入れるかは決まっていない」と話しました。

本のプロ 推しの二冊

見知らぬ友
マルセロ・ビルマヘル 著
福音館書店



主人公を助ける謎の人物

「見知らぬ友」はアルゼンチンの作家マルセロ・ビルマヘルが書いた短編集です。全部で10編の物語で、アルゼンチンの首都ブエノスアイレスが主な舞台です。
タイトルにもなっている「見知らぬ友」は、主人公がピンチになると突然現れる謎の人物を巡るストーリー。テストの答案を作成してくれたり、好きなクラスメートへのラブレターを書いてくれたり、大臣のスピー

チ原稿を書いてくれたりと、人生の節目に現れては主人公を助けてくれます。
4度目の出会いでついに「見知らぬ友」と話す機会を得た主人公は、長年抱いていた疑問をぶつけます。日本から見て地球の裏側を舞台とするこの短編集。どれも20分以内で読むことができますので、外国文学になじみがなくても、気軽に楽しめる本です。中学生から。（宮城県図書館 鈴木泰河さん）